

かずさ

日本ボーイスカウト
上総地区

31号

発行日
2015. 2. 1

発行：関口 陽市（地区委員長） 編集：運動拡大委員会（委員長 山本 勲）

2014.11.9 上総地区ラリー in 鶴舞

平成 26 年 11 月 9 日（日）市原市鶴舞にある和光大学セミナーハウス（旧県立鶴舞青年の家）において上総地区ラリーが開催されました。前日は雨、当日も朝は霧雨で屋外での活動が出来るか心配しましたが、集合時間である 9 時を迎える頃は曇天、活動を開始後は晴天に恵まれ、またとない活動日となりました。展開したプログラムは、ボーイスカウト技能を取り込み、ビーバースカウトからボーイスカウトまでが楽しめるという難しい課題に各団が挑戦し仕上げたもので、素晴らしいものでした。当日の参加者はスカウト 146 人、指導者 146 人、スカウト以外の子ども 25 人、保護者 34 人合計 351 人でした。

上総地区ラリーを終えて

地区ラリーは、11 月 9 日（日）に和光大学セミナーハウス（旧鶴舞青年の家）を会場に開催いたしました。最近では、上総地区創立 30 周年ラリー（平成 15 年に千葉県子どもの国で開催）以来、11 年ぶりとなる久しぶりの開催となりました。

テーマを「上総は一つ！ 広げようスカウトの輪」と致しました。このテーマに沿って、スカウトは団をバラバラに 1 班がビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウトからなる 18 班に編成されました。

各班は、班長、次長を決め用意された豚汁サイトで昼食を挟み 7 つのゲームサイトを踏破し総合得点を競うプログラムとしました。

即席班長・次長が、今日初めて見るビーバー・カブスカウトをまとめ



られるか心配でした。ところが、心配をよそにビーバー・カブスカウトを随え次々にゲームサイトを踏破していきます。ビーバー・カブスカウトのキラキラ輝いた目、満面の笑顔を見ると私まで微笑んでしまいました。立派な班長・次長でしたよ！これからも頼もしいお兄さんスカウトになってください。

今回のもう一つのコンセプトとして、ローバー・ベンチャースカウトのカッコ良い姿をボーイ・カブ・ビーバースカウト、保護者の皆さんに見てもらおうことでした。市原 3 団ベンチャースカウトによる開会・閉会セレモニーは素晴らしい進行でした。そして大型クラフトは、ベンチャー

スカウトの凄さを見せてくれました。ローバースカウトは、班分けゲームを見事に進行しました。本当にカッコよくそして立派なスカウトを見せてくれました。今後も、スカウトの憧れの存在としてスカウト活動を謳歌してください。

最後になりましたが、今地区ラリーはテーマに沿って大成功に終わることができました。これは、実行委員はじめ、各団の皆様のご協力の賜物と感謝いたします。そして、会場について絶大なるご配慮をいただきました鶴舞活性化ネットワークの皆様にも、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（実行委員長 星山 豊栄）



各団担当ブースとスカウトの感想

ワッワッワッ

市原第1団

難しかった天秤（バランス）

ゲームスタート。まずはビーバー。少々複雑なルールに戸惑う。そこは、ボーイが優しく教える。カブは参加したくて仕方がない。1回目の天秤を終えてカブの番。時間も忘れて重りと荷物を持ち比べ、やたら荷物の入れ替えをする。もう一度やりたがるビーバー。時間が気になるボーイ。せかされてカブも2回目の天秤を終える。ボーイの番、下級スカウトの声援と残り少ない時間に焦る。そして制限時間直前に3回目の天秤へ。

私は天秤に荷物を掛けると、心の中でガッツポーズをした。スカウト全員、いや、まわりの大人までもが、天秤のつり合う光景を期待し、ワクワクしながら天秤を凝視していたからだ。

原案は、自分達の持ち物を持ち寄り、早く重りと釣り合わせるタイムゲームでした。1～3人が荷物を乗せてゲームを終える様子が、容易に想像できました。私たちの頭を悩ませたのは、中学生から幼児までが、全員参加し楽しめる方法でした。当日になり進め方を一新しました。制限時間内に、重りと荷物をそれぞれ手に持って、重さを比べその後、天秤に掛ける。ビーバー、カブ、ボーイの順で3回チャレンジ。最終的に、重りにどれだけ近いかを争うルールに変更しました。

私が3回目の天秤から手を放すと、班全員が笑顔と歓声に包まれたり、ため息をついて肩を落としたり、一致団



結した姿を見せてくれた。またいつか、ビーバーからボーイまでが同じ目標に向かって協力するような活動をやってみたいと思いました。(ボーイ隊インストラクター 高梨 朗)

この度、初めて地区ラリーに参加させていただきました。上総地区という広い地域のスカウト達が集まり普段の活動とは全く違う雰囲気でした。はじめ私は様々な団のスカウトが班として構成されており不安かなと心配しました。でも活動が始まると、各団の楽しいイベントや昼食をとる中で班としての結束が感じられました。とくにボーイスカウトが班長や次長としての意識を持てる良い機会となったと思います。また、ベンチャースカウトの活躍も目を見張るものがありました。各団の裏方として働いて下さったスタッフの方々のおかげもあり、スカウト達は目を輝かせて思い出を話してくれました。どうも、ありがとうございました。

(デンリーダー 若海 寛子)

カブスカウトの感想

つるまい青年の家の地区ラリーに行きました。いつもぼくがサッカーの練習をしている場所もふんいきもちがいました。ちがう団との交流で活動



してすぐ仲良くなって、協力して、消火活動したり、タイムで総合わせしたり、とても楽しかったです。マシュマロも美味しかったしとんじるも美味しかったです。三ばいもおかわりしました。これからもこういう活動にさんかしてみたいです。

(しか 高山 喜一郎)

いろいろなあそびをしました。木とロープとしぜんだけをつかってあんなにできるとは、びっくりしました。とくに、火を消すゲームでは、じぶんもみんなもえていました。やいたマシュマロおいしくてさいこうでした。

(うさぎ 鈴木 優花菜)

十一月九日、日ようび、つるまいせい年の家で、上総地区ラリーさんかしました。マシュマロがおいしかったです。まずやくときにそーっとマシュマロを回してやくのです。やきおわって、食べたらず中は、もちもちしておいしかったです。また食べたいです。

また、火けしなどのゲームがたのしかったです。ロープのむすびかたをおぼえたいです。(うさぎ 今 諒多)

丸太でGO!

市原第3団

市原第3団ブースは“丸太でGO”とネーミングしました。モニュメントとでもいうべき大きなアスレチック台遊びと丸太一本橋の並び替えゲーム、ねじむすびによる丸太引きりレースです。前日は小雨の中、前泊ベンチャースカウトを中心にローバースカウトとリーダー、スカウトOBが集まりアスレチック台を製作しました。「もし明日本番が雨で遊べなくても、みんなの力で大きなものを作りきったんだ」という充実感をスカウト達の表情の





中に感じとりました。

本番当日は予想に反しての好天に恵まれ、各班のスカウト達が意気揚々とアスレチック台に登り、それを安全サポートにまわったベンチャースカウトが見守っている様子は本当にたくましく、頼もしく感じられました。また、開閉会式での司会と国旗掲揚を当団のベンチャースカウトが担当し、初めての体験ながら無事立派に大役を務め、ホッとすると同時に誇りに思っています。

丸太一本橋の並び替えゲームは新任のカブ隊長に、丸太引きレースは保護者を中心に運営してもらいました。各班のスカウト達が協力しなければ早いタイムを出せないゲームでしたが、それぞれの班がボーイスカウト班長を中心にビーバースカウト達をうまくリードして、かなり接戦のゲームとなりました。

閉会式後のアスレチック台の解体には、各団の方々のお手伝いをいただき、おかげさまでスムーズに終わることができました。厚くお礼申し上げます。

ベンチャースカウトの感想

今回、アスレチック台を作り、良い経験が出来て良かったです。作成では、



安全に登ってもらえるように、きつく角縛りで結ぶのが大変でした。当日は、たくさんのスカウト達にアスレチック台に登ってもらい、大きな事故も無く、楽しんでもらえてよかったです。そして、私は、開会式で国旗掲揚をしました。今回のような大勢の前で国旗掲揚をするのは、初めてでしたが、練習をたくさんやり、緊張せずにできたのは、良かったです。(花岡 尚輝)

アスレチック台を作ったことのある先輩から結構キツかったと聞いていたので、自分に出来るのか不安でしたが、いざ作る時には多くのリーダーやスカウトが集まって順調に作れ、とても頑丈なアスレチック台が出来ました。あとは、初めて大きな活動での開会、閉会式の司会を務めて、物凄く緊張したけどいい経験ができたと思いました。(稲村 裕雅)

前日から鶴舞に来てアスレチック台を作りました。アスレチック台は事前に模型を作り、本番での危険などを確認しておいたので事故なく設営撤営を終えることができました。ビーバー、カブ、ボーイのスカウト達が喜んでくれてよかったです。司会の役は大変でしたが、仲間と一緒にしたので頑張れたと思います。有難うございました。



(花房 彩香)

アスレチック台は私の先輩が前に作った物で見たことはありませんでしたが、作成した事はなかったので上手く作れるか心配でしたが、なんとか完成させる事ができました。当日の地区ラリーでは、大勢のスカウトが来てくれてスカウトたちの楽しそうに遊ぶ顔がとても印象的でした。(北川 健一)

**♪サイトの参観日♪
市原第5団**

市原第5団は、モデルサイトの運営でした。隊長に任命されてから、初めての計画～設営になります。点検のために10月に設営してみました。長年使用していたA型テント(スカウト用)は劣化がひどく両側のファスナーは壊れていました。我が団では、年に1度程度の頻度での使用でしたが「この壊れたテントに気付きもしないで、至らないリーダーだった。文句も言わずによくここまで使用してくれた。」と自責の念と感謝の気持ちで胸が熱くなりました。OBに指導を受けながら、ベンチャー隊1名と指導者3名で前日から設営に取り組みました。初心に戻って基本に忠実に行ったつもりでしたが、テントのフライの部分が前後逆であったり、食堂フライの支柱が曲がっていて使えなかったりと、不備な点も多く工夫を凝らしようやく完成してみると、もう日が暮れようとしていました。

当日は早朝から準備に取り掛かり、スカウトを迎える準備も整え？あとは待つばかりです。正直、モデルサイトと言っても特別な事もなく、ビーバー



からのスカウトが興味を持ってくれるのか不安でした。入り口から入ってくると、甘い匂いに誘われて、まずは焼マシュマロに向かおうとする、スカウトの注意をサイト側に向け説明、スカウトも興味を持って説明を聞いてくれたのは感心しました。最後はおいしそうに焼マシュマロを頬張っている姿を見て、嬉しくなりました。

まだ、課題の多いモデルサイトでしたが、設営について、ベンチャースカウトが気付きを得て、次の後輩達に伝えたいと感じてくれた事、ピーバー・カブスカウトがキャンプサイトに興味を持ってくれた事等、考察すると成功だったのではないのでしょうか。最後に、初めて運営(指揮)する立場になり、至らない事が多く保護者・指導者・地区の方々には助けられて無事に終了する事が出来たことに感謝したいと思います。(ボーイ隊隊長 石垣 千草)

ベンチャースカウトの感想

11月9日に上総地区ラリーの5団ブースの奉仕に参加した。市原5団では「サイトの参観日」をテーマとし、模擬サイト展示と立ちかまどを用いたデザート作り(マシュマロ焼き)を展



開した。実際、ブースに来てくれた班に模擬サイトの説明などを担当したが、説明不足のため上手く伝わったか不安であるが、マシュマロ焼きは楽しんでもらえたと思う。ピーバーやカブの中にはマシュマロを焼いて食べたことがないというスカウトもあり、そのスカウトたちには新たな新食感スイーツとして認知してもらえたのではないかなと思う。ただ、ブースの奉仕をしていると他の団のブースを見学に行く時間が捻出できなかった。もし可能であれば次回以降その時間を設けてほしいと思った。(膳棚 和也)

5団は、モデルサイトを作りました。今まで、何回か設営をして来たが今回多くの発見がありました。ペグは一列に揃えて打ち込む事。これは、見栄えも良くテントがしっかり張れるように。



食器棚を造りました。竹で作ったのは初めてだったが、結構頑丈に出来ました。竹とロープがあれば色々な物が造れると思いました。普段あまり考えた事がなかったが、次はボーイ隊にも教えてあげたいと思いました。

(石垣 竜太)

おもてなし 市原第6団

平成26年地区ラリー、市原第6団のおもてなし。11月9日に開催された地区ラリー、市原第6団のテーマは「おもてなし」で豚汁を振る舞うことになった。予定では400人分。見当もつかない位の人数で数量が出てこない。一人分の必要量を出し400倍にして出した答えが肉14Kg、大根10本、人参40本・・・この分量を効率よく、時間内に作るには下ごしらえが必要と、前日に10人が集まり下茹でして一鍋毎に分け準備をした。黒一点のリーダー、包丁さばきが見事でしたよ。さすがです。

当日のお天気も気がかりで、予報では雨!雨プロになるのを覚悟していたが、現地は曇り、外で出来るとの判断でスタートした。晴れ男、晴れ女の方に感謝!

ベンチャースカウト、ローバースカ





ウトも加わり指導者達の見事な連携プレイ、次々と大鍋に豚汁を作って行く。配給には第6団のみんなが手を貸してくれて、余りお待たせしないで配給が出来た。心残りはお変わりをしなげられなかったこと。美味しいと言ってお変わりをしに来てくれたみなさん、ゴメンナサイ。慌ただしかった一日が無事に終わりホッとしています。みなさま、お疲れ様でした。

また、道具を貸して下さった方々にお礼を申し上げます。有り難うございました。(団委員 齋藤 敏子)

スカウトの感想

ほくは11月9日地区ラリーに参加しました。ほくは9班の次長になりました。ほくはこの地区ラリーで心に残ったのが3つあります。

まず一つ目が三角竹馬をつくったことです。ロープ結びは角しばりをやりました。前回の隊集会でつくった、たちかまどをいかせたのでうれしかったです。完成品は意外とがんじょうで、ビーバーの子もうまく乗れました。その後結果を聞くと、なんと2位でした。ゲームが終わった後カブの子2人乗ってもだいじょうぶでした。うれしかったです。お昼豚汁を食べました。とてもおいしかったです。具たくさんで、あきることのない、とてもすてきな豚汁でした。

最後に地区ラリーの最優秀班になったことです。緑色のしおりをもらいました。このことをいかして、優秀なス



カウトになれるよう、努力したいです。(ボーイ隊 武内 祐樹)

チームは1つ! 協力して進め 市原第7団

まずは、実行委員及び自団リーダー各位に対し、その労力に感謝致します。前日の天気予報では雨天とのことでしたが、野外での実施英断に拍手! 当然、天気予報に対し、雨プロの為に前日よりその準備に取り掛かり万全を期しましたが、やはり野外での活動に勝るものはなく、雨プロと晴天プロとの折衷案で行える事に安堵しました。

さて、当市原第7団のプログラムは三角竹馬とポックリでした。三角竹馬



はボーイスカウト部門での工作物構築の基本技である三角形を使った遊びでした。カブスカウトとボーイスカウトとのチームワークも課題でした。また、ビーバースカウトはいかに楽しく遊ぶかでした。さあ、竹馬の作製となったとき、竹の上下(太い方と細い方)の見極めをせず、細い方を足側(下)にしてしまったため、いざ、竹馬に人が乗ったとき、ズボンがずり落ちるがごとく、横に渡した竹がズルズルになってしまった班がいくつかあったことは残念でした。

しかし、実に手際よく班員を動かし、しっかりした竹馬をあっという間に作ってしまい、我々の思惑以上の動きを見せた班もありました。それでも、どの班も竹馬にビーバースカウトを乗せ、約5mをみんなで力を合わせ運ぶ



段になれば、やんや・やんやの応援と奮闘に、とても即席の班とは思えないまとまり。思わず私たちもニンマリ、といったところでした。ある班は、面白かったからと2度も挑戦してくれました。竹馬を作製中(ボーイスカウトとカブスカウトで作製)ビーバースカウトはポックリで、一二!一二!とこれまた楽しそうでした。

プログラム全体の進行を見ていると、やはり、班員構成によって大きな差が生まれるとは思っていましたが、まさにその通りの展開となりました。自隊で班長、次長経験者がいた班は、その実力を遺憾なく発揮していました。簡単な材料で遊び道具を作れる、その遊び道具は、実は大きな構築物の基本技術につながっている事を知ってもらえたならありがたいです。各隊リーダーもあえて、自隊のプログラムに遊び道具作りを取り入れ、みんなで楽しむことを考えてもいいのではないのでしょうか。楽しいプログラム 万歳!

ビーバースカウト隊

心配していたお天気も回復し、11月



にしては少し暑いくらいの中「地区ラリー」が開催されました。ビーバースカウト達にとっては初めてのことばかりで、最初は緊張気味でしたが、ボーイ隊やカブ隊の優しいお兄さん、お姉さんに面倒をみてもらいながら各団のプログラムを楽しむことができ、大変実りある一日になったようです。

○ビーバースカウトの感想

- ・いつもと違う場所で楽しかった
- ・いろいろな事ができて楽しかった
- ・優秀賞をもらって嬉しかった
(優秀賞をいただいたスカウトは帰りの車中、記念品のしおりをずっと手に持っていました。途中、疲れて寝てしまったのですが、それでも離さずしっかり持っていました。)

○保護者の感想

- ・他の団のたくさんスカウト達と一緒に活動ができて良かった
- ・ボーイ隊のスカウトが年少スカウトの面倒をみてくれる姿が頼もしかった
- ・スカウト活動の良さを知ることができた

第六感を磨け！

茂原第2団

「五感を試せ！」

ボーイスカウトのお兄さん、お姉さんを先頭にカブスカウトやビーバースカウト、そして初めて参加のお友だちがやって来ました。茂原第2団のブースは五感をためすゲームです。さあ、日頃の訓練の成果は出るかな？入口でベンチャースカウトに誘導されて4つのゲームに挑戦！



1つめはジェスチャーで「音」を表わすゲームです。音を体で表現するのは難しいです。相手に伝える方法をたくさん知っているといいですね。

2つめは匂いを当てるゲーム。「ケチャップだ!」「納豆だ!」と、盛り上がりました。たくさん匂いを一度にかぐとわからなくなってしまうこともありますね。



3つめはキムス。ハイキングやキャンプによく使うものばかりです。くりかえし思い出したり、体で覚えると、記憶は残りやすくなります。生活や勉強にも役に立つかな？

そして4つめは絵合わせゲーム。1枚の絵が2つに切れていて、1枚に完成させます。「こっちだ!それじゃない」

と指示する班長、意外にすばらしい記憶力を発揮するビーバースカウト、なんとなく選んだ2枚がピッタリと当たったカブスカウト。まわりで応援しているリーダーも熱が入り、楽しい1日でした。

スカウトの感想

新しい仲間が作れた地区ラリー

僕は11月9日に、ボーイスカウトの活動で、地区ラリーに行ってきた。

地区ラリーでは、上総地区のスカウトがたくさん集まっていた。開会式が終わった後、班分けゲームをした。茂原2団のみんなとバラバラになってしまったが、元気なスカウトに出会うこともできた。初めのほうは、ビーバーさんたちが班長の言うことを聞いてくれなくて、大変だったが、班のみんなでいろいろなゲームをすることにより、班の仲間が仲良くなったと思う。僕は特に、市原1団の元気なスカウトと、優しいボーイスカウトの人と、とても仲が良くなった。

僕は、この地区ラリーを通して、自分が一回り大きくなったような気がした。「仲間と協力する」ということがよくできたと思います。地区ラリーは、いい思い出になりました。

(ボーイ隊 大貫 紘暉)



全員で川を渡れ 東金第1団

上総地区ラリーの開催について、団から周知されたのは、8月のことでした。何か良いプログラムが無いものかと投げかけられ、千葉県カブラリーで何処かの地区で行っていたもので良いものがないか、思い返しました。上総地区以外のプログラムで、ビーバーからボーイスカウトまで参加でき、比較的簡単に準備が行えるもの。「矢切りの渡し」の川渡りを思い出しました。ロープも使い、体も動かし、ルールも簡単なので、行けるかもと思い提案したところ、採用となりました。

カブラリーに参加したカブスカウト隊指導者達のサポートもいただき、プログラムの原案を作成し、準備を始めました。その後、隊集会後にデモンストレーションを行い、島の形を作るロープの長さを決めたり、川幅を決めたりと、プログラム案を精査していききました。

ラリー前日、天気予報は雨天。どうなることかと心配しましたが、蓋を開けてみれば暑くもなく寒くもなく、良い環境でプログラムに臨むことができ、準備も滞りなく行えました。

いよいよプログラムスタート。当団は、最終打ち合わせが行えていなかったため、一抹の不安はありましたが、当団関係者は連携が良く、プログラムの進行も難無くこなし、全チームをプログラム参加させることができました。また、参加したチームからも、簡単だけど面白かったと、好コメントをいただきました。

地区内の隊での交流はありますが、団全隊での交流は、良い経験となりました。また、「さすがボーイ」だと、かれらの成長を実感させられた交流でもありました。(カブ隊副長 小高 功晴)

スカウトの感想

11月9日。この日は待ちに待った上総地区ラリーが行われる日。僕はわくわくしながら、このラリーに参加しました。僕はこのラリーでうれしい事や心配なことをたくさん経験しました。僕は最初のゲームでさっそく心配になりました。それは班決めです。くじ引



きで班を決めるので知らない人と班を組んだのですがすぐに意気投合しすっかり仲良くなりました。そしてなんと僕が班長になってしまいました。なので、カブスカウト隊の子やビーバースカウト隊の子をまとめられるか心配でしたが、順調にゲームを進めることができました。そして、結果発表の時。そこで奇跡がおきました。なんと、僕の班が最優秀班になったのです。僕は喜びと驚きで胸がいっぱいになりました。このラリーでたくさんの喜びを味わうことができました。

(ボーイ隊 宮崎 郁人)



ほくのおじいちゃんがうんでんするマイクロバスにのって、かずさちくラリーにいきました。いろんなだんのスカウトたちがきていて、ほくはどきどきしました。ボーイたいのおにいさん



が、はんちょうになってだんごとのゲームにちょうせんしました。ゲームをしていくうちに、みんなとなかよくなりました。みんなでたべたとんじるは、あつあつでとてもおいしかったです。

(ビーバー隊 出下 暁)

後日、ビーバースカウトに地区ラリーの感想を聞きました。覚えていることは?の問いかけにまず、「焼いたマシュマロがおいしかった」「豚汁がおいしかった」でした。そのあとに「ロープをつかったことがおもしろかった」「ゲームをしたたのしかった」どんな?「絵あわせ」「においをかいだ」「バケツリレーで火をけした」「たけうま」等々。帰りのバスの中は、ぐったりとして寝てしまうかと思いましたが、大はしゃぎ。最初は緊張していたスカウトも、すぐに慣れて、楽しく興奮した1日だったようです。

(ビーバー隊隊長 山下 すみ江)

バケツリレーで消火活動 大網白里第1団

「バケツリレーで消火活動」というプログラムは、阪神・淡路大震災で発生した火災の約8割の箇所、バケツリレーなど市民による消火活動が行われ、鎮火に役立ったというニュースがヒントになった。大地震発生直後には消防署の力をはるかに超える火災が発生する事が予想されるので、万々に備え、訓練に励んでもらおうと考えた次第。

事前に予行演習もおこなったが、一番苦労したのは、火点(燃えている火)の作り方。それは使い古しのタオル半枚に灯油を染み込ませて台の上に置く

事でクリアー。ラリー当日は、1チーム10名で編成し、幼児用プールを起点に、最初の人からプールからバケツで水をくみ取り、そのバケツをみんなで次々とリレーしながら運び、最後の人から火点に水をかけ、火が消えるまでのタイムを競い、順位付けをした。

全16班が挑んだこのプログラムは、結構楽しんでもらえたのではないかな。また、実際にやってみたら、思ったほど簡単ではなく、コツもある事を学んだのではないかな。つまりは、いざという時に備え、日頃の訓練が大事だということをもっと感じていただけたと思う。

なお、雨天用の「煙の中、出口をさがせ」と題したプログラム（最後尾の班長を除いた全員がチーフ等で目隠し

して一列縦隊となって、目標物を往復し、その時間を競う）も捨てがたいので、機会あれば実施したいと考えている。

スカウトの感想

わたしは、11月9日に上総地区ラリーに行きました。わたしは、団や隊などでクイズをしようと思っていたので、バラバラになって動くと言われて思わず「えっ」と言ってしまう、すぐ、くじを引く順番になって、わたしは七班になりました。ぐうぜんと同じ団のビーバーの子がいました。

最しよは、すぐこの班になじめるか心配だったけど、だんだん慣れて、さて、お昼の時間のときは、ふつうに話せていくようになっていきました。

最後に、表彰がありました。八位から一位までありました。八位、五位、



三位には団の人がいて、わたしがいる七班は、二位でした。一位は、団の人はいなかったけど九班の人たちでした。二位だったので『ゆうしゅうはん』と書かれたしおりみたいなものをもらいました。最しよはいやだったけど、とっても楽しい1日でした。

(カブ隊 平井 汝織)



日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内にはボーイスカウトの114個団の団があり、7,272人（平成26年10月現在）が活動しています。また、県内を11地区に分け、我が上総地区もこの11の地区の一つです。上総地区には8個の団が所属しています。

団名	活動地域	入団等問合せ先	電話番号
市原第1団	市原市八幡宿、五井周辺	田中 秀近	0436-21-3840
市原第3団	市原市国分寺台周辺	河崎 哲夫	0436-43-2226
市原第5団	市原市牛久周辺	藤代 良彦	0436-92-0034
市原第6団	市原市辰巳台周辺	齋藤 敏子	0436-75-0392
市原第7団	市原市姉崎周辺	菊池 由紀	0436-62-4004
茂原第2団	茂原市、長生郡、夷隅郡周辺	青木 勇	0475-23-9239
東金第1団	東金市、山武市、山武郡周辺	山下 博行	0475-55-0204
大網白里第1団	大網白里市、白子町周辺	奥貫 誠	0475-72-7988